

# 総会で事業計画承認

## 群馬エコノミー工業会

群馬エコノミー工業会(山田義明会長)は21日、前橋市内の群馬県勤労福祉センターで2011年度第7回定期総会を開催した。同工業会は、エコノミー側溝の普及ならびに技術面において業界の合理化と充実を図るために

発足。正会員にはカイ

エー共和コンクリート(前橋市)、三和コンクリート工業(伊勢崎市)、太陽コンクリート工業

(高崎市)、高村建材工業(甘楽町)の4社が名を連ねている。

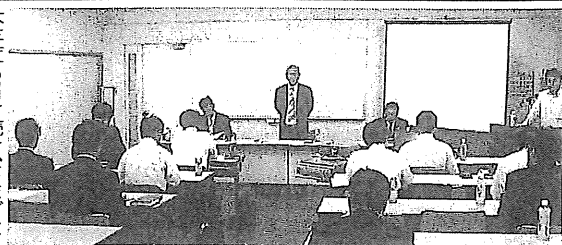
エコノミー側溝は従来のG.P.U側溝と比べ、軽量かつ消音、経済性にも優れ、県や市町村などが発注する数多くの工事に使用されているほか、その高い機能性から群馬県建設工事関連新技術にも登録されている。

開会後、あいさつに立った山田会長は、多数の参会に感謝と敬意を表したのち「エコノミー側溝の認知度はますます向上し、出荷量も着実に増えている。昨年度は公共工事における採用延長こそ前年を下回ったものの、納入現場数は確実に増加しており、民間での採用実績も伸びている。これもエコノミー側溝の持つ高い品質、そして会員皆さま方の販促活動の成果。本年度も引き続き、エコノミー側溝の良さを広く周知するための各種取り組みをお願いしたい」と呼びかけた。

来賓あいさつでは、高村建材工業の高村幸宏取締役が登壇し「日本のスーパーコンピューターが世界一に輝き、改めて日本の持つ高い技術力が証明された。このエコノミー側溝も高品質だからこそ、販売実績が伸びているのであって、今後も皆さま方と一致団結し、さらなる普及に努力していく覚悟」と意気込んだ。

その後、議事へと移行。昨年度の事業報告や本年度の事業計画案などが審議され、いずれも満場一致で承認された。本年度の事業計画では「安全で活力ある街づくり」テーマに、製品の供給、PR活動を検討し、経済性のみならず、福祉や地域貢献に踏み込んだ活動を積極的に実施するとともに、エコノミー側溝のさらなる普及・拡大に努め、地方公共団体向けの販売目標を13500mに定め、会員一丸となって販促活動を実施していく方針だ。

休憩を挟み、高崎市長寿社会課の職員を講師とした「認知症サポーター養成講座」が行われ、会員は熱心に耳を傾けていた。



本年度も引き続き、さまざまな販促活動に取り組んでいく

「と

ていく方針だ。